ひとはく通信

118

Sep. 2022



コレクショナリウムの誕生



建物のこだわり

収蔵庫とは、極めて立派な倉庫です。それを単なる 倉庫としないように館員皆で計画を進めました。その こだわりを紹介します。

まずは、配置計画について。博物館の収蔵庫は、博 物館のいちばん奥。大事な宝箱として計画されるのが 一般的です。しかし、今回の計画では博物館の玄関口 に配置しています。同じ建築投資でも、まちに価値を還 元できる配置にこだわり計画しました。

次に、断面計画。収蔵庫を2階部分に上げて計画し ました。これにより一階部分をギャラリーや公開型の研 究施設として利用できるだけでなく、必要面積が一番 大きい収蔵庫を、2階に大きく張り出し計画することで、

大きな庇を持つ縁側のような空間を実現しました。 そして最後は屋外空間との連続性。大きな庇を 持つ縁側空間とそこに面する窓を開放できる計画と しました。道路側からもガラス面を多く計画し視覚的 にも連続性を作り出しています。収蔵庫の大敵は、気 候の変化と害虫の進入ですが、これらの課題に対 し、多様な研究員の知恵を集めて対処しています。

コレクショナリウムは、たくさんの人が関わり、想 いを詰め込めるタイムカプセルのような収蔵庫を 目指して計画しました。ぜひ、多くの皆さんに利用 していただきますようお願いします。

福本 優(環境計画研究グループ)



収蔵庫の断面イメージ



多様な利用ができる縁側空間

トピックス

コレクショナリウムの外部空間のみどころ

コレクショナリウムの外部空間は、大きく二つの見どこ ろがあります。

一つは「広場」としての機能です。建物前は、大型バス の駐車スペースであると同時に、休日にはマルシェやイ ベントなどを開催できる広場としての機能をもっていま す。これから、まちのにぎわいをつくる様々な催しを実施 していく予定ですので、楽しみにしてください。

鎖樋を流れる雨水。 とてもいい音がします。



降雨時の雨庭のようす。 これからこの場所に三田の在来植物を植えていきます。

二つめの見どころは「雨」です。コレクショナリウ ムの屋根に降った雨水は「鎖樋(くさりどい)」を 伝って、心地よい音を立てながら流れていきます。 また、敷地の外周部には意図的に雨水を取り込む 構造をもった「雨庭(あめにわ)」があります。雨庭 は、雨水を貯留・浸透することから洪水抑制に貢 献します。それだけでなく、雨庭に流れる水や濡れ

> る植物を楽しむことができます。雨 庭の一部は今年度、ひとはくセミ ナーの受講者、クラーク国際記念高 校三田キャンパスの生徒たちがデ ザイン・施工を行います。

> 来年度以降も、近隣住民やひとは く利用者のみなさまと一緒に、ゆっく りと、みんなの手でつくり育てていき ます。

髙田知紀(環境計画研究グループ)